



那珂川町郷土史研究会

裂田溝23

横枕堰周辺

じる子どもたちのにぎやかな笑い声が響いていました。向い側には町教育委員会が設置した「裂田溝」の標識が立っています。側面に「古代に掘られた人工の用水路で、日本書紀にも記述されています。このような歴史を持つ溝の中では、所在地が分かる唯一のものといえます」と記されています。

「橋」18」の100m下流に、5本の石柱が立つ「取水口」横枕堰」があります。ここでせき止められた水は、1.5m上流にある道路の下を横切る直径20cmの土管を通り、北側の広い田んぼへと取水されています。

この辺りは、寺山田地区の東側にあります。城山（岩門城跡）の美しい雄姿が、間近に見えるところです。

広報なかがわ1月号で『心やすらぐ日本の風景 疎水百選』が発刊されたので、裂田溝が、大きく紹介されていることをお知らせしました。ほかにも季刊誌『邪馬台国』1月号の中で、裂田溝と伏見神社が詳しく記されています。先人が残した第一級の文化財を持つ那珂川町が、このように全国的に紹介されることを誇らしく思います。今後の現地探訪につながることが願っています。

裂田溝に架かる「橋18」は、今回の事業で新設された橋です。すぐそばに駐車場と、水辺に降りられるように6段の石段が設けられました。この辺りでは、厳しい暑さが続いた昨年の夏、釣りをする人や泳ぎに興

たこともありました。登山口がある西側(寺山田側)の中腹に、高津神社があります。神社一帯は巨石が多く、岩門合戦の時代には砦があつた所だと言われています。麓から神社までは200段余りの石段が続きます。

すが、歩幅も程よく取り付けられているので登りやすく、世話をされる人たちの優しさがうれしく感じら

れまて。高津神社は寿永年間、原田種直が^土怡土の高祖神社を勧請したものと^と言われ、別名「高津稲荷大明神」とも呼ばれています。2月と7月にはここで祭りが行われ、2月の初午の日に振る舞われる「かしわご飯のおにぎり」と「ぜんざい」のおいしさは、参拝者の楽しみの一つです。祭

りの前日には地元の人の家でもちつきがあり、当日は80代、90代の高齢のおばあさんが這うようにして長い石段を上つて来られ、社務所にある今では珍しくなつた囲炉裏いろりでもちを焼き、ぜんざいに入れて振る舞われます。地元の人たちの暖かい接待に、寒さも忘れてしまいます。

城山の南側の麓に柿ヶ塔と言われる場所があり、那珂川八十八ヶ所12番霊場「柿ヶ塔の滝」があります。そばには那珂川八十八ヶ所71番札

満々と一里の流れ裂田溝
城山に照る朝日を拝

輝雄

コースメモ

63. 排水路

64. 取水口 — ⑨
よこまくらせき
(横枕堰)

65. 排水路

次号へ 伝七橋周辺

史跡メモ

さくたのうなで
型田清標識

三、**力**

柿ヶ塔の瀧
(那珂川霊場 瀧-12)

千手観音(柿ヶ塔の瀧そば)
(那珂川八十八ヶ所71番札所)

庭園(つつじ)(桜)

